

教科 Subject	地理歴史		科目 Course	世界史A	学年 Grade	4	単位数 Credits	2			
教科書 Textbook	要説 世界史(山川出版社)			副教材Additional Text /materials	新詳世界史図説(浜島書店)・世界史B一問一 答[重要用語問題集](山川出版社)						
科目の目標 Course Objectives		世界史Aの重点ポイントである近世から現代にかけてを世界史Bの内容を加味しながら学習を進め、それ以前の世界史を学年の後半に実施し6年時の世界史Bとの効率のよい連携を図る。									
評価の基準 Assessment Standards		中間試験/期末試験（定期試験内容：設問形式80点、論述形式20点）・小テスト・論述等 =70%、授業点=30%。学年末にて素点を総計し、評定を算出します。									
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~					
1 学期	4	1	明～清、ティムール朝、ムガル帝国、オスマン帝国			ヨーロッパ地域や中国の歴史についての基本的な流れを把握し、その地域の関連性を考察できる					
		2									
		3	ルネサンス期、宗教革命、ヨーロッパの変化								
	5	4	近代国家の成立			さまざまな民主革命や新たなる体制、文化の発展における基本的な考えを理解するとともに、国民が何を考え、何を求めているかを考察できる					
		5	重商主義、植民地政策、オランダの成立								
		6	産業革命、独立戦争、革命運動、ウィーン体制								
	6	7	自由主義社会、南北戦争、欧米の文化、						帝国主義諸国のアジアとアフリカでの動向を理解するとともに、帝国主義の動きを模倣した日本軍部の中国侵略の動きを理解するとともに、植民地化された国々の民衆の生き方や在り方を考察できる		
8		オスマントルコの衰退、植民地支配の動向、アヘン戦争									
9		帝国主義社会の成立、アフリカ分割、中国分割									
7	10	太平洋地域の分割、中国の利権争い									
	11	義和団事件、日露戦争と韓国併合、各地の民族運動									
	12										
2 学期	9	13	辛亥革命と中華民国の成立			第一次世界大戦から第二次世界大戦に関わる諸外国の動きを理解するとともに、その国々の民衆の動きを考察できる。また、世界恐慌による経済的な破綻がある中、諸外国の経済的政策を考え、現在の経済政策とリンクできる					
		14									
		15	大量消費社会と現代思想								
		16	第一次世界大戦、ロシア革命、ヴェルサイユ体制								
	10	17	ワシントン体制、アジアの動向、中国の国民革命			国際連合と冷戦体制のしくみを把握し、世界各国の抱える課題や国と国との関係を理解できる					
		18	第二次世界大戦、景気対策、枢軸体制の形成、戦争の終結								
		19									
		20	国際連合の成立、冷戦体制の成立、冷戦期の戦争								
	11	21	アジア・アフリカ諸国の独立、冷戦構造の変化			イスラムの国々や中国の動向など各地域の諸問題についての課題を認識し、その解決法を考察できる					
		22									
		23	石油危機と世界経済の変容、冷戦諸国の変化								
		24	イスラム社会の動き、中国の動き、各地域の運動								
12	25	現代社会にあるさまざまな社会問題等の考察									
	26	(パレスティナ問題やイスラム世界の動向など)									
3 学期	1	27	人類の出現、農耕と牧畜、さまざまな文明			世界史Bの基本的な歴史の用語や流れを把握できる (世界史Aから世界史Bへの導入として学習を行います。またセンター試験などの入試問題へのチャレンジを行い、意識づけを行います。)					
		28	センター試験へのチャレンジ								
		29	中国の古代文明～殷～元								
	2	30	ヒンドゥーとイスラムの社会の形成、東南アジアの王朝								
		31	メソポタミア社会、古代オリエント、西のイスラム社会								
		32	ギリシア人の世界、ローマの発展、中世ヨーロッパ								
		33	様々な交易、地域の商人、十字軍とイタリア商人、モンゴル								
	3	34									
		35									

履修者へのメッセージ Message for Students

高校の世界史とは、一言で言ってしまうと、諸国家の歴史です。日本史より遥かに広く、そして長い時間を扱います。したがって、日本史のように為政者を時間尺度に取っていると、決定的に間に合わなくなります。また、地理的な要素に注目すると、比較的分かりやすくなります。ある国がおおよそどの地域にあったのか、どの国と接していたのか、どの民族（語族）の国だったのか。どこが人の通り道で、なにが交通の障碍だったのか。減り張りをつけて学習してください。

教科 Subject	地理歴史		科目 Course	日本史A	学年 Grade	4	単位数 Credits	2	
教科書 Textbook	日本史(山川出版社)			副教材Additional Text /materials	新詳日本史(浜島書店)・日本史B一問一答[重要用語問題集](山川出版社)				
科目の目標 Course Objectives	日本史Aの重点ポイントである近代から現代にかけてを日本史Bの内容を加味しながら学習を進め、6年時の日本史Bとの効率のよい連携を図る。								
評価の基準 Assessment Standards	中間試験/期末試験(定期試験内容:設問形式80点、論述形式20点)・小テスト・論述等=70%、授業点=30%。学年末にて素点を総計し、評定を算出します。								
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~			
1 学期	4	1	第1章 近代への胎動			江戸末期の社会的背景を理解し、幕府がそのために何をやり、 どういう結果をもたらしたかを理解できる。またその環境の中、 民衆は何を考え、何を生み出したかを理解できる			
		2	1 日本をとりまく世界の変容						
		3	2 近世社会の動揺						
	5	6	4	第2章 開国と明治維新			江戸幕末の海外との関係の変化やそれに伴う民衆の動きを理解し、 その後の明治維新への流れについて考察することができる		
			5	1 アジアの激動と日本の開国					
			6	2 江戸幕府の滅亡					
			7	3 明治維新					
6	8	8	4 富国強兵			政策による明治政府内、国民内における考えの違いを知るとともに、 その後どのように社会が変化していくかを理解する。殖産興業と文明開化という 社会変化と現代とがリンクできる			
		9	5 初期の外交						
		10	6 殖産興業と文明開化						
7	11								
		12							
2 学期	9	13	第3章 立憲国家の成立			自由民権運動という民衆の動きと政府の対策の駆け引きを理解するとともに日本の民主制の確立の反面、戦争を通じて徐々に帝国主義に傾きかけている社会を考察できる			
		14	1 自由民権運動						
		15	2 立憲制の成立						
		16	3 立憲政治の展開						
	10	17	17	4 日清・日露戦争			産業革命と明治文化維新を通じて江戸時代とは違う変化を知り、 現代とのリンクができる		
			18	5 産業革命と社会の変容					
			19	6 明治の文化					
			20	第4章 第一次世界大戦と日本					
11	21	21				政党政治のあり方と第一次世界大戦における日本のあり方が交差しながら 日本社会が変容していく様子を理解できる。日本社会に影響を受けながら 民衆文化や経済社会の変化を理解できる			
		22							
		23	第5章 昭和の恐慌と満州事変						
		24							
12	25	25				大陸における軍部の台頭が進み、日本国内における民主化が停滞し 軍主体の国体へと変化していく様子を理解するとともに国際社会からの孤立を知る			
		26							
3 学期	1	27	第6章 第二次世界大戦と日本			日中戦争から第二次世界大戦までの流れを理解するとともに、その背景で国民は何を考え、 どう行動するかということも考察する			
		28							
		29							
	2	30	30	第7章 占領下の日本			占領下における日本にあり方を理解し、その後日本はどう復興していったかを考察する。 また、国際社会における日本の立場を冷戦や朝鮮戦争などを通じて理解する		
			31						
			32	第8章 経済繁栄と保守長期政権					
			33						
	3	34	34	第9章 現代の世界と日本			自民党体制における日本社会の変化と高度経済成長期の変化を理解し、 その中で国民は何を考え、どう生活をしていったかを理解するとともに国際社会における 日本のあり方を考察する		
			35						

履修者へのメッセージ Message for Students

(1) 日本史は政治史が全てではありませんが、為政者の順番は時代の尺度として役立ちますのでかならず修得してください。(2) 経済は、かならずその時代の特色と、その理由を押さえてください。(3) 文化については、かならず文化の担い手であるひと(民衆を含む)の特徴を押さえてください。

教科 Subject	地理歴史		科目 Course	世界史B	学年 Grade	5	単位数 Credits	2			
教科書 Textbook	詳説 世界史(山川出版社)			副教材Additional Text /materials	詳説世界史図説(浜島書店)・世界史B一問一 答[重要用語問題集](山川出版社)						
科目の目標 Course Objectives		原始から近世までの時代の流れを多面的にとらえるとともに、近代・現代は世界史Aの復習及び補充的内容に焦点を絞り、一連の歴史の背景を考察する。									
評価の基準 Assessment Standards		中間試験・期末試験・小テスト等=70% (設問形式70点分、論述形式30点分)、授業点=30%。学年末にて素点を総計し、評定を算出します。									
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~					
1 学期	4	1	ガイダンス			大河のもと発展していった文明の編成を理解しつつ、各語族の所在地と文化・国家の特質を説明できる。					
		2	序章 先史の世界								
		3	第1章 オリентと地中海世界								
	5	4	古代オリент世界			ギリシア文明は、代表的都市アテナイの沿革と、ギリシャとアケメネス朝ペルシアの政治体制の違いを理解するとともに、ローマ文明とも対比することができる。					
		5	ギリシア世界								
		6	ローマ世界								
	6	7	第2章 アジア・アフリカの古代文明			地中海世界の確立過程を説明できるとともに、アケメネス朝ペルシアや劉漢との交流を正しく説明できる。					
		8							インドの古典文明		
		9							インドの古典文明		
	7	10	東南アジアの諸文明			インド通史を宗教・異民族の流入という視点から説明できる。インドシナ地域は、インドと中国の間という地理的な特質から、文明の変遷を説明できる。アフリカ史・アメリカ大陸文明は、諸王国の時期・場所・特質を正確に対応させることができる。					
		11							東南アジアの諸文明		
		12							東南アジアの諸文明		
2 学期	9	13	中国の古典文明			諸子百家や中央集権的な政治体制の誕生を歴史的背景から説明できる。戦国の七雄は、中国前近代史の基礎なので、場所と名前を特定させられるようにする。					
		14	南北アメリカ文明								
		15							南北アメリカ文明		
	10	16				第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成			分裂と動乱の時代背景を見つつ、その中でも隋や唐につながる新しい体制を知り、その社会に発生した自由な精神活動の営みを理解できる。		
		17	草原の遊牧民とオアシスの定住民								
		18	草原の遊牧民とオアシスの定住民								
	11	19	北方民族の活動と中国の分裂			ユーラシアの東西文化交流を、各地域の民族の動向を概説できるとともに、文化の交流の様子を、世界遺産等から理解することができる。					
		20							北方民族の活動と中国の分裂		
		21							北方民族の活動と中国の分裂		
	12	22	東アジア文化圏の形成			草原・砂漠地帯にある民族の動きやイスラームの影響を受けつつ、ユーラシアの大半をおおう大帝国を建設した元のイスラーム・ロシア・ヨーロッパへの影響を説明できる。					
		23	東アジア文化圏の形成								
		24	第4章 イスラーム世界の形成と発展								
3 学期	1	25	イスラーム世界の形成			7世紀から16世紀初めにいたるイスラーム世界の沿革を日本史との対比で説明できるようになる。イスラーム文明史における基本用語の意味を説明できるようになる。					
		26	イスラーム世界の形成								
		27	イスラーム世界の発展								
	2	28	インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化			荘園制度の確立と、それによるヨーロッパの拡張を説明できる。地中海世界崩壊以降の勢力関係と、それぞれの経済段階、十字軍の経済にもたらした影響を説明できる (SGH)。					
		29	インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化								
		30	イスラーム文明の発展								
	3	31	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展			荘園制度の確立と、それによるヨーロッパの拡張を説明できる。地中海世界崩壊以降の勢力関係と、それぞれの経済段階、十字軍の経済にもたらした影響を説明できる (SGH)。					
		32	西ヨーロッパ世界の形成								
		33	東ヨーロッパ世界の形成								
3	34	34	西ヨーロッパ中世世界の変容			荘園制度の確立と、それによるヨーロッパの拡張を説明できる。地中海世界崩壊以降の勢力関係と、それぞれの経済段階、十字軍の経済にもたらした影響を説明できる (SGH)。					
		35	西ヨーロッパの中世文化								

履修者へのメッセージ Message for Students

世界史Bでは、近現代の歴史に関しては世界史Aで学習を終えていますので、先史時代から近世後半までを通史として取り扱います。近現代については、受験で世界史が必要な生徒は各自で学習を進めるようにしてください。世界史Bに関しても常に時代を進めて学習を続けていきます。先の時代が頭から抜けやすくなりますので、繰り返し反復練習ができるような学習スタイルを作るようにしてください。2年がかりの学習になります。

教科 Subject	公民科		科目 Course	政治・経済	学年 Grade	5	単位数 Credits	2	
教科書 Textbook	詳説 政治・経済(山川出版)			副教材Additional Text /materials					
科目の目標 Course Objectives	広い視野から民主制、現代の政治、経済、国際関係などの客観的な理解を深め、関連諸課題について主体的に考察し、公正に判断できる良識ある公民として必要な能力と態度を養う。								
評価の基準 Assessment Standards	中間試験・期末試験・小テスト等（定期試験内容：設問形式70点、論述形式30点）=70%、授業点=30%。学年末にて素点を総計し、評定を算出します。								
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents		到達目標 Students will be able to ~				
1 学期	4	1	第1部 現代の政治		権力・基本的人権について理解し、法の支配や民主政治・人権の発達や世界の政治体制について学習し、説明できる。				
		2	第1章 民主政治の基本原則						
		3							
	5	4	第2章 日本国憲法と民主政治		日本国憲法の成立、平和主義や基本的人権の保障の内容を理解し、日本国憲法の意義について説明できる。				
5									
6	7	6	第3章 日本の政治制度		日本における国会・内閣・裁判所、また地方自治のしくみを説明できる。 三権分立の意義について、説明ができる。				
		8							
		9							
7	11	10			日本の戦後政治の流れを理解し、政党と選挙のしくみ、また世論の役割について説明できる。				
		12	第4章 現代日本の政治						
2 学期	9	13	第5章 現代の国際社会		国際政治と国際法の意義、国際連合の成立過程や活動について学習し、戦後の国際社会と日本の関係性について理解できる。				
		14							
		15							
		16	第2部 現代の経済						
	10	17	17	第1章 経済社会の変化		経済活動の意義、資本主義経済の形成や変容、また特徴を理解し、社会主義経済との違いを説明できる。			
			18						
	11	19	19	第2章 現代経済の仕組み		経済主体の役割、市場・財政・金融の仕組みを理解し、国民所得や経済成長を学習した上で経済活動がどのように調整されているかを説明できる。			
			20						
12	21	21			戦後の経済成長の流れや産業構造の変化について説明できる。 中小企業問題、日本の農業、労働問題、消費者問題、公害・				
		22							
3 学期	1	23			環境問題について学習した上で、多様な問題にどのように取り組む必要があるかを考えられる。				
		24							
		25	第3章 日本経済の発展と国民福祉の向上						
	2	30	26			国際取引・収支、外国為替の仕組み、また南北問題について学習し、国際経済における日本の役割を考えられる。			
			27						
			28	第4章 国際経済の変化と日本					
3	31	29			現代日本・国際社会における様々な課題から各自選択し、問題点を明確にした上で解決策を考えられる。				
		32							
3	34	33	第3部 現代社会の諸課題						
		35							

履修者へのメッセージ Message for Students

政治は、基本的人権と民主政治との関係を意識しながら学習すること。基本的人権の理解に際しては、主要な判例に眼を通しておくこと。経済は、経済主体の経済活動というミクロな現象だけを見ていると見落とすマクロな現象の動きを、市場原理を介してミクロと連結させながら学習すること。逆にマクロな動きがミクロな細部に及ぶ際には、市場原理と技術革新・社会問題が連動した結果であることに留意すること。

教科 Subject	地理歴史		科目 Course	日本史B	学年 Grade	5	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	詳説 日本史(山川出版)			副教材Additional Text /materials	新詳日本史(浜島書店)・日本史B一問一答[重要用語問題集](山川出版社)			
科目の目標 Course Objectives		日本通史について、世界と関連づけつつ総合的に理解し、資料を参照し、歴史的認識を深めることで、国際社会に主体的に生きる国民としての自覚と資質を養う。						
評価の基準 Assessment Standards		中間試験・期末試験・小テスト等=70%（設問形式70点分、論述形式30点分）、授業点=30%。学年末にて素点を総計し、評定を算出します。						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	日本文化のあけぼの			原始の気候と生活を説明できる。		
		2						
		3	律令国家の形成			倭の五王と大陸朝鮮との関係を説明できる。 氏族政権の変化と仏教の受容過程を説明できる。		
	5	4						
		5						
	6	6						
		7	貴族政治と国風文化			藤原氏と天皇家の政権抗争や班田制の崩壊を説明できる。 荘園・国衙領の変質と、院政の台頭を説明できる。		
8								
2 学期	9	9	中世社会の成立			武士の身分を最終的にどのように保障していたのかという観点から、鎌倉幕府の政治を説明できる。		
		10						
		11						
		12						
	10	13	武家社会の成立			守護大名と戦国大名の特質の差に留意し、戦国武将の台頭、またその文化について説明できる。		
		14						
		15						
		16						
		17						
		18						
3 学期	1	19						
		20						
		21	幕藩体制の確立			織豊政権から徳川政権への展開を説明できる。江戸幕府の組織体系を説明できる。		
	2	22						
		23						
	3	24						
		25						
		26						
		27						
		28						
		29						
		30						
		31						
		32						
		33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

膨大な歴史的事実を覚えなければならない時、常に意識しなければならないことが少なくとも2つあります。1つは、なぜそれを覚えなければならないのか、その史実の意義はどこにあるのかという問題であり、もう1つは、それが歴史的にいかなる影響をどの程度持ちえたのかという問題です。歴史は網羅的に暗記できるものでもなく、常に意義と史的因果連関により、自分が今なにをするべきかを考えるためのものであったという基本に立ち返って、史実へのスタンスを決めてください。

教科 Subject	地理歴史		科目 Course	世界史B	学年 Grade	6	単位数 Credits	4
教科書 Textbook	詳説 世界史B 改訂版(山川出版社)			副教材Additional Text /materials	詳説世界史図説(浜島書店)・世界史B一問一答[重要用語問題集](山川出版社)			
科目の目標 Course Objectives		原始から近世までの時代の流れを多面的にとらえるとともに、近代・現代は世界史Aの復習及び補充的内容に焦点を絞り、一連の歴史の背景を考察する。						
評価の基準 Assessment Standards		中間試験・期末試験・小テスト等=70%（設問形式60点分、論述形式40点分）、授業点=30%。学年末にて素点を総計し、評定を算出します。						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents		到達目標 Students will be able to ~			
1 学期	4	1	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開		内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握できる。			
		2	トルコ化とイスラーム化の進展					
		3	東アジア諸地域の自立化					
	5	4	モンゴルの大帝国		新しい宗教観のもと社会構成や世界観が作られたアジア地域の変遷を説明できる。中国では中央集権的な政治体制や儒教などの新しい思想が形成していく過程を説明できる。分裂と動乱の時代背景を見つつ、中でも隋や唐につながる新しい体制を知り、その社会に発生した自由な精神活動の営みを説明できる。ユーラシア大陸の草原・砂漠地帯にある民族の動きやイスラームの影響を受けつつ、ユーラシアの大半をおおう大帝国を建設した元の在り方を説明できる。			
		5	第7章 アジア諸地域の繁栄					
	6	6	東アジア世界の動向					
		7	国と隣接諸地域					
8		トルコ・イラン世界の展開						
9		ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展						
7	11							
12								
2 学期	9	13	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成		「世界の一体化」が、公の利益を巡る激しい競争により生じたことと、16世紀から19世紀の対外的対抗意識の国家間の動きを説明できる。 ポルトガルやスペインが台頭するなかで、中世から継承されたもの、されなかったもの、イスラム世界から流入したものを説明できる。また宗教改革との関連から、なぜドイツとイタリアが遅れたかを説明できる。			
		14	パ世界の拡大					
		15	ルネサンス					
		16	宗教改革					
	10	17	ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成		絶対王政における外交と内政を説明できる。また、諸国の植民地政策と、市民革命の要因・展開・影響を説明できる。			
		18	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開					
		19	重商主義と啓蒙専制主義					
		20	ヨーロッパ諸国の海外進出					
	11	21	17~18世紀ヨーロッパの文化と社会					
		22						
23								
24		論述対策						
12	25							
26								
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
		33						
3	34							
35								

履修者へのメッセージ Message for Students

世界史Bでは、近現代の歴史に関しては世界史Aで学習を終えていますので、先史時代から近世後半までを通史として取り扱います。近現代については、受験で世界史が必要な生徒は各自で学習を進めるようにしてください。(ただし、学習内容や過去問等に関してわからないことや疑問がある場合は、積極的に聞きに来るようにしてください。)世界史Bに関しても常に時代を進めて学習を続けていきます。先の時代が頭から抜けやすくなりますので、繰り返し反復練習ができるような学習スタイルを作るようにしてください。

教科 Subject	地理歴史		科目 Course	日本史B	学年 Grade	6	単位数 Credits	4
教科書 Textbook	詳説 日本史 改訂版(山川出版)			副教材Additional Text /materials	新詳日本史(浜島書店)・日本史B一問一答[重要用語問題集](山川出版社)			
科目の目標 Course Objectives		日本通史について、世界と関連づけつつ総合的に理解し、資料を参照し、歴史的認識を深めることで、国際社会に主体的に生きる国民としての自覚と資質を養う。						
評価の基準 Assessment Standards		中間試験・期末試験・小テスト等=70%（設問形式60点分、論述形式40点分）、授業点=30%。学年末にて素点を総計し、評定を算出します。						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	江戸時代前期 1			禁教、鎖国、石高制、幕藩体制を説明できる。		
		2						
		3	江戸時代前期 2			江戸時代初期の文化、社会構造、身分制度を説明できる。		
	5	4						
		5	江戸時代中期 1			町人による貨幣経済の発展を説明できる。		
		6						
	6	7	江戸時代中期 2			諸改革の特質と幕府の行き詰まりを説明できる。		
		8						
		9	江戸時代後期 1			蘭学、国学、陽明学その他の発展を説明できる。		
	7	10						
		11	江戸時代後期 2			列強の近海侵入と幕府の対応を説明できる。		
		12						
2 学期	9	13	問題演習			①各時代の特徴を理解できる。		
		14				②各時代の資料を適切に解釈できる。		
		15				③問題演習(大学入試問題等)を多用し、知識理解を深めることができる。		
		16				④各時代のテーマについての一定量の論述ができる。		
	10	17						
		18						
		19						
		20						
	11	21						
		22						
		23						
		24						
12	25	まとめ						
	26							
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
	3	33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

膨大な歴史的事実を覚えなければならない時、常に意識しなければならないことが少なくとも2つあります。1つは、なぜそれを覚えなければならないのか、その史実の意義はどこにあるのかという問題であり、もう1つは、それが歴史的にいかなる影響をどの程度持ちえたのかという問題です（もとより、これらは切り離すことができるものでもありませんが）。歴史は網羅的に暗記できるものでもなく、常に意義と史的因果連関により、自分が今なにをするべきかを考えるためのものであったという基本に立ち返って、史実へのスタンスを決めてください。

教科 Subject	公民		科目 Course	倫理	学年 Grade	6	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	最新現代社会（実教出版）			副教材Additional Text /materials				
科目の目標 Course Objectives			現代社会の問題を知り、その解決方法として政治経済・倫理的方法を応用するすることができるようになる。					
評価の基準 Assessment Standards			中間試験・期末試験・小テスト等=70%（設問形式70点分、論述形式30点分）、授業点=30%。学年末にて素点を総計し、評定を算出します。					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第1部 わたしたちの生きる社会			地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学などの現代社会の諸問題を正確に捉え、解決策を考えることができる。【環境】		
		2	第2部 現代社会と人間					
		3						
	5	4	1 青年期と自己の形成			青年期の不安や苦悩のメカニズムを理解する。		
		5	2 現代の民主政治と日本国憲法			哲学や宗教、古代日本人の思想を体系的に理解する。		
6	7	6	第1章 現代国家と民主政治			民主政治とそれが現代国際社会に一般化した理由を説明できる。		
		8	第2章 日本国憲法の基本的性格			世界のおもな政治制度を理解する。		
	9	第3章 日本の政治機構と政治参加				日本国憲法の理念、三大基本原理を理解する。		
10	立憲平和主義と、それを巡る動向を説明できる。			三権分立（各国権機関の役割と関係）とその意義を説明できる。				
7	11				選挙諸制度を説明でき、政治的無関心の問題点を考える。			
12								
2 学期	9	13	3 現代の経済社会と国民生活			主な経済主体の経済活動と、相互の関係を説明できる。 市場の限界と金融・財政政策の関係を具体的に説明できる。 日銀の金融政策と役割を説明できる。		
		14	第1章 現代の経済社会					
		15	第2章 日本経済の特質と国民生活					
	16							
	10	17	第3部 共に生きる社会をめざして			日本の戦後経済の流れを説明できる。		
		18				中小企業と農業が抱える問題点を説明できる。		
19	4 国際社会と人類の課題			雇用・労働問題、企業の社会的責任を説明できる。				
20								
11	21	第1章 国際政治の動向			第二次世界大戦後の国際社会の流れを説明できる。			
	22	第2章 国際経済の動向と国際協力			経済のグローバル化を説明できる。			
23	人口・食料・環境問題を説明できる。【貧困】【環境】							
24	宗教と紛争の問題を説明できる。【貧困】			国際連合のしくみを説明できる。				
12	25				国際連合と日本の国際協力の関係を説明できる。			
26								
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
	32							
3	33							
	34							
35								

履修者へのメッセージ Message for Students

「現代社会」はみんなが今生きている社会のしくみや課題を理解する科目です。新聞やテレビ、インターネットを通じてさまざまな情報を得ることができる中、それを正確に理解するためにはある程度の知識と考える力が必要になります。そのために「現代社会」では日々変容していく社会に生じている様々な問題を知り、それに対する解答として「政治経済」や「倫理」の基本原則を学んでいきます。そして、現実社会に起こっている諸問題に対して、自分独自の視点から課題を見つけ、その解決法を探ることを目標にします。